

ネクタリン病害虫防除暦

散布日	散布時期	散布薬剤 (水 100 ㍓当り)	収穫前 使用時期	使用 回数 (以内)	散布量 (㍓)	対象病害虫 (発生病害虫)	注 意 事 項
月 日	3月下旬 (発芽前)	(水 98 ㍓) ①スプレーオイル 2㍓ トレノックスフロアブル 200m㍓	発芽前 30日前	— 5回	300	(縮葉病) カイガラムシ類 ハダニ類	①カイガラムシ類の発生が心配される場合は、アブロードフロアブルの 1000 倍 (7 日前、2 回) を加用する。 ②トレノックスフロアブルに代えて、石灰硫黄合剤の 10 倍 (発芽前) でもよい。*石灰硫黄合剤は隣接するハウスビニールにかからないようにする。 ③せん孔細菌病発生園は、開花前にキンセット水和剤 80 の 1,000 倍 (開花直前まで、5 回) を特別散布する。
月 日	開花始め (1~2 輪咲)	②IC ボルドー412 3.3kg	—	—	350	せん孔細菌病	*せん孔細菌病の伝染源となる春型枝病斑は、こまめに切除する。(5~6月) ①せん孔細菌病の発生園は、開花始め~6月中下旬の散布まで、展着剤にアビオンEの1000倍(固着性展着剤)を使用する。アビオンEに代えて、KKステッカーの3000倍でもよい。(KKステッカーは必ず最後に混用する) ②もも混植園で、黒星病(うどんこ病)の発生が心配される場合は、5月上旬にコロナフロアブルの500倍を加用する。 ③アブラムシ類の発生園は、5月上旬にウララDF2000倍(7日前、2回)を加用する。 ④もも混植園で、うどんこ病の発生が心配される場合は、5月中旬にトレノックスフロアブルに代えて、ストロビードライフロアブルの2000倍(前日、3回)を使用する。
月 日	5月上旬 (前回から 10日後)	③展着剤 10m㍓ トレノックスフロアブル 200m㍓ サムコルフロアブル10 20m㍓ マイコシールド 66g	30日前 3日前 28日前	5回 2回 5回	350	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 モモハモグリガ ハマキムシ類 シンクイムシ類	
月 日	5月中旬 (前回から 10日後)	④展着剤 10m㍓ トレノックスフロアブル 200m㍓ アブロードフロアブル 100m㍓ モスピラン顆粒水溶剤 25g マイコシールド 66g	30日前 7日前 3日前 28日前	5回 2回 3回 5回	400	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 アブラムシ類 モモハモグリガ シンクイムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類幼虫	
月 日	5月下旬 (前回から 10日後)	⑤展着剤 10m㍓ トレノックスフロアブル 200m㍓ ハチハチフロアブル 50m㍓ マイコシールド 66g	30日前 前日 28日前	5回 2回 5回	500	せん孔細菌病 黒星病、灰星病 (うどんこ病) シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類	①もも混植園で、うどんこ病の発生が心配される場合は、トレノックスFに代えて、フルーツセイバーの2000倍(前日、3回)を使用する。 ②カイガラムシ類の発生園は、ハチハチフロアブルに代えて、コルト顆粒水和剤の2000倍(前日、3回)を使用する。
月 日	6月上旬 (前回から 10日後)	⑥展着剤 20m㍓ デランフロアブル 100m㍓ アルバリン顆粒水溶剤 50g マイコシールド(*注意事項) 66g	14日前 前日 28日前	2回 3回 5回	500	せん孔細菌病 (灰星病)、黒星病 (ホモプシス腐敗病) シンクイムシ類 モモハモグリガ アブラムシ類 カメムシ類	*せん孔細菌病の発生が心配されない場合は、マイコシールドを散布しなくてもよい。
特別散布 6月中旬 (前回から7~10日後) せん孔細菌病の発生園はマイコシールドの1500倍(28日前、5回)を特別散布する。収穫前規制注意							
月 日	6月中下旬	⑦展着剤 20m㍓ デランフロアブル 100m㍓ ダズバンDF 33g スターナ水和剤(*注意事項) 100g	14日前 14日前 7日前	2回 2回 3回	600	せん孔細菌病 (灰星病)、黒星病 (ホモプシス腐敗病) ハマキムシ類 シンクイムシ類	*せん孔細菌病の発生が心配されない場合は、スターナ水和剤を散布しなくてもよい。 ①カメムシ類の発生園は、アルバリン顆粒水溶剤2000倍(前日、3回)を特別散布する。
月 日	7月上旬	⑧展着剤 20m㍓ ナリアWDG 50g イカズチWDG 66g	前日 前日	2回 2回	600	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ カメムシ類	①ナリアWDGはぶどう(ピオーネ、サニールージュ)、西洋梨ル・レクチェに薬害を生じる恐れがあるので、隣接園は注意する。 ②ハダニ類の発生園は、ダニゲッターフロアブル2000倍(前日、1回)を加用する。*ダニゲッターフロアブルはぶどうに薬害を生じる恐れがあるので、飛散しないようにする。
月 日	7月中下旬	⑨展着剤 20m㍓ オンリーワンフロアブル 50m㍓ ディアナWDG 10g	前日 前日	3回 2回	600	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	①シンクイムシ類の発生が心配される場合は、ディアナWDGに代えてモスピラン顆粒水溶剤の4000倍(3日前、3回)を使用する。
月 日	8月上旬	⑩展着剤 20m㍓ ベルコートフロアブル 50m㍓ アーデントフロアブル 50m㍓	前日 前日	2回 3回	600	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 カメムシ類 ハダニ類 (モモハモグリガ)	①ハダニ類の発生園は、コロマイト乳剤の1000倍(7日前、1回)を加用する。
月 日	8月中下旬	⑪展着剤 20m㍓ オーシャインフロアブル 50m㍓ サムコルフロアブル10 20m㍓	前日 3日前	3回 2回	600	灰星病、黒星病 ホモプシス腐敗病 シンクイムシ類 モモハモグリガ	①シンクイムシ類、(アザミウマ類)の発生が心配される場合は、サムコルフロアブルに代えて、エクシレルSEの5000倍(前日、3回)を使用する。
月 日	9月上旬	⑫展着剤 20m㍓ ベルコートフロアブル 50m㍓	前日	2回	600	灰星病 ホモプシス腐敗病 黒星病	①シンクイムシ類の発生が心配される場合は、アーデントフロアブル2000倍(前日、3回)を加用する。
月 日	収穫終了後 3回散布 9月上中旬~ 10月上旬	⑬・⑭・⑮ アビオンE 100m㍓ ICボルドー412 3.3kg ダイアジノン水和剤34 100g	— 21日前	— 3回	600	せん孔細菌病 シンクイムシ類 ハマキムシ類 クワコナカイガラムシ若齢幼虫	*ダイアジノン水和剤34は1回目の散布のみ使用する。 ①アビオンEに代えて、KKステッカーの3000倍でもよい。(KKステッカーは必ず最後に調合する) ②ICボルドー412に代えて、コサイド3000の2000倍(収穫後~落葉まで)でもよい。薬害が心配される場合は、クレフノンを加用する。 ③コスカシバの発生園は、フェニックスフロアブルの500倍(開花期まで、1回)を樹幹部及び主枝に十分散布する。

*安全・安心な農産物生産のために使用基準は厳守しましょう